

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第301回

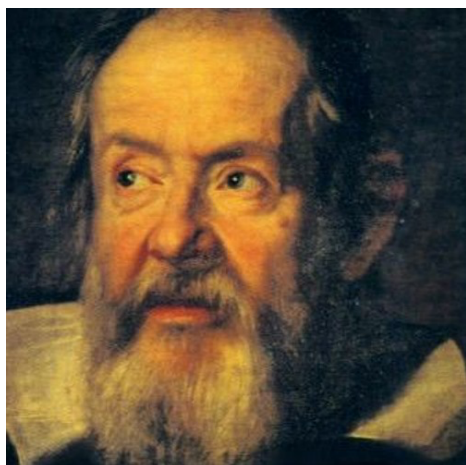
ガリレオ・ガリレイ

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年4月4日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

I have never met a man so ignorant that I couldn't learn something from him.

私は、何も学ぶべきものがないほど愚かな人に会ったことはない。

ガリレオ・ガリレイは、イタリアの物理学者、天文学者。近代科学的な手法を樹立するのに多大な貢献をし、しばしば「近代科学の父」と呼ばれる。また天文学分野での貢献を称えて「天文学の父」とも呼ばれる。最初は医学を学ぼうとピサ大学で学んだが、ユークリッドやアルキメデスの本を読むうちに数学や力学へと関心が移った。

Column

これから始まる新たな一年間に対してみなさんはどのように感じているのでしょうか。多くの発見と成長を感じられる時間にしていきましょう！新年度最初のコラムは有名すぎるほど有名な学者であるガリレオの言葉ですが、彼ほどの知識と能力を手に入れても、さらに学ぼうという“強い意欲”を今回の言葉から感じました。

今回の言葉には2つのメッセージがあると私は感じました。1つ目は『誰からでも何からでも、そのどこからでも学ぶところはある』というものです。学校・家庭・仲間などの様々なコミュニティは、全て一つの小さな“社会”と言えます。その中で本当に様々な出来事が起こり、その出来事に対して様々な感情を抱きます。それを全ての“情報”と捉えることができれば、それは全ての学びに繋がるのだと感じました。2つ目は『人に対して何も学ぶべきものがないと判断することこそが愚かだ』というものです。その人が持つ様々な考え（本音）を読み取る努力を怠るということは、自らの成長するチャンスを放棄していることにもなります。目の前に自分が成長するチャンスがあるのに、それを掴もうとしないことは単純に“もったいない”ということなんだと感じました。

今回の言葉にある『愚か』という言葉は、日常で使う頻度はかなり低いものです。ですから非常に重たく感じる人も多いと思いますが、この言葉の意味を白めてみると“知恵、思慮が足りないこと”とありました。思慮とは“いろいろと思ひめぐらした考え”とあります。そういう意味では成長できる可能性があるということです。これまで以上に知識を深め、これまで以上にいろいろと注意や思いやりの気持ちを巡らせながら日々を過ごしていくことで、きっと自分自身も仲間も一緒に成長していけるものと私は思います。新たな一年間のスタートに対し、不安を抱えている人も多いことでしょう。むしろ余裕がある人なんてほとんどいないと思います。そんな時こそ大切な仲間と、互いに思いやりを持つことで、目標達成に向かってみんなで一歩ずつ進んでいしましょう！みなさんにとって良い一年に！